

NEWSLETTER of
the Japanese Society for Applied Animal Behaviour No.10
December 2007

日本家畜管理学会・応用動物行動学会共催
2007 年度秋季現地検討会参加報告

瀬尾哲也(帯広畜産大学)



岡山大学での畜産学会の翌日 9 月 28 日に行われた現地検討会(笠岡干拓地における自給飼料を活用した大規模畜産経営)に参加した。岡山大学から 1 時間程度バスで移動し、岡山県の南西部に位置する笠岡湾干拓地に到着。現地では、農業普及指導センターから笠岡干拓地におけるコントラについての説明を受け、その後酪農家 2 戸、肥育農家 1 戸の見学をした。参加者は 14 名と少なかったが、その分ゆっくり見学と質問ができ大変有意義なものであった。

笠岡湾干拓地の農業用地は 1811ha、酪農 12 戸、肥育 5 戸が営農している温暖な気候の大規模畜産団地である。コントラ事業により飼料用トウモロコシの二期作が行われているのが特徴である。酪農では、出荷乳量は県下のトップクラスであるようだ。

竹信牧場(酪農):フリーストール(フリーバーンもあり)、経産牛 266 頭、1 頭あたり乳量 10866kg、年間出荷乳量 2750 トン、自作と借地干拓コントラによるトウモロコシ二期作 55ha で収量 3190 トン、3 回搾乳、7 名雇用という大規模酪農である。牛舎とパーラーにはたくさんの送風、細霧装置が取り付けられ暑熱対策が行われており、また牛舎内にカウブラシも設置され、頻繁に牛が利用していた(写真)。糞はピニールハウスで乾燥させ良質な堆肥を生産し、戻し堆肥やトウモロコシの堆肥、一部販売で利用されている。



藤原牧場(肥育):和牛 20 頭、F₁を 430 頭、3 棟の牛舎で肥育しており、さらに竹原市でも哺育・育成牛を 300 頭飼養している。自家所有地 10.2ha、醤油粕・ビール粕・おから等を利用した TMR 給与、糞尿処理施設により堆肥生産。肥育期間 18-20 ヶ月、年間 280 頭販売、F₁ の日増体量 0.88kg で、牛は 7、8 頭程度のグループで群飼されていた。

山中牧場(酪農):フリーストール(フリーバーンもあり)、経産牛 280 頭、1 頭あたり乳量 9207kg、年間出荷乳量 2290 トン、自作と借地干拓コントラによるトウモロコシ二期作 46ha で収量 2644 トンというこちらも大規模酪農である。糞乾燥施設が 3 棟もあり、敷料はすべて堆肥だけでまかない、さらに堆肥はサラサラ堆肥の名で販売もしている。牛舎の一角に牛用のシャワー室があり、天井から水が散布されていた。

以上簡単ではあるが、見学農家の概要を示した。酪農では、トウモロコシの二期作(二期作なのに驚くほど高く伸びていた)や本格的な暑熱対策が行われており、乳量もしっかり確保しているこれらの経営は北海道からみると驚くことが多かった。繁殖には問題を抱えており、今後の課題のようであった。山中牧場は、求人をしており大学生に宣伝してくださいとのことでした。最後に、今回の現地検討会をお世話いただいた広島大学の藤田正範先生、小櫃剛人先生、豊後貴嗣先生に感謝いたします。

動物の環境エンリッチメントに関するシンポジウム報告 「動物たちのQOL(生活の質)向上を考える 飼育動物における環境エンリッチメント」



シンポジウム担当幹事 青山真人(宇都宮大)

2007年11月4日麻布大学にて、本学会主催、日本家畜管理学会とヒトと動物の関係学会共催で、公開シンポジウム「動物たちのQOL(生活の質)向上を考える 飼育動物における環境エンリッチメント」を開催した。前応用動物行動学会会長佐藤衆介先生(東北大)には環境エンリッチメントに関する導入を、新村毅氏(麻布大)には産卵鶏を中心に家畜の環境エンリッチメントを、上田秀一先生(獨協医科大)には環境エンリッチメントが脳に及ぼす影響を、上野吉一先生(東山動物園)には霊長類を中心に展示動物の環境エンリッチメントを、そして尾形庭子先生(動物行動クリニック・FAU)にはネコを中心に伴侶動物の環境エンリッチメントについて講演を頂いた。それぞれの先生からとても興味深い講演を頂いた。個々の講演の詳しい報告は、麻布大学の大学院生である鳥羽さん(彼女には当日の受付係もして頂きました。ありがとうございました)による報告と、翌3月出版予定の機関誌 Animal Behaviour and Management Vol.44, No.1 に掲載予定のシンポ報告に譲るとして、ここには、青山の個人的な経緯や感想を報告させて頂こうと思う。

私青山は、昨年度からシンポジウム担当幹事を任されているが、実はこのシンポが、私が中心となって設定した初めてのシンポだった。このシンポのきっかけは2006年 月に佐藤衆介前会長に「9月末に岡山で開催される第108回日本畜産学会に合わせ、環境エンリッチメント関連のシンポを開催してはどうか」と提案を頂いたことであった。しかし私は、畜産学会の開催が平日であったことなどから、公開シンポとしては日程が悪く、畜産学会とは別に企画した方が良くと思い、佐藤先生にこの考えを伝えたとこ、これを承諾して下さい。日程と会場について幾つかの候補を当たり、落ち着いたのが11月4日の麻布大学だった。一般の方々が興味を持つと考えられる分野(実は私自身が聴きたい分野...)を決め、その分野で分かり易く講演して頂けるであろう先生を探し、お願いした。シンポ開催の4-5日前に、座長を決めていなかったことに気がつき、慌てて講演者の先生方に縁の深い先生方をお願いした(竹田先生、田中先生、武田先生、加隈先生、突然の座長依頼を引き受けて頂き、まことにありがとうございました)。

当日、自分が思っていたよりは集まった人が少なかった(70名以上の方に参加頂いたのだが、実は青山は180名収容の会場に入りきらないほど人が集まったらどうし

よう、という無駄な心配も少ししていた)。また、「総合討論」の時間を設定してはいたが、シンポの講演は概して時間が押すものなので、これを言わば「緩衝時間」として設けていた。最後の尾形先生の講演が終了したのが終了予定時刻ぴったりだったので私の読みはある意味正確だったのだが、総合討論が本当に必要な状況になり、あたふたしてしまった。ということで、人集めや進行などについて反省点はあった。今後に生かしたい。

自分としては今回のシンポは成功だと思っている。一般人(消費者?)、動物園関係者、伴侶動物の専門学校講師、大学院生など様々なバックグラウンドの人にご来聴頂き、活発な議論が行われた。そして私自身が嬉しかったのは(一般向けの公開シンポという目的からずれてはいるが)、講演を頂いた先生方が他の先生方の講演を熱心に聴いておられたことであった。環境エンリッチメントは、全ての飼育動物の福祉に必要な不可欠なことで、しかも研究テーマとしても多くの可能性を秘めている。今回のシンポが、環境エンリッチメントという分野の発展にほんの少しでも役立つように、今後努力したいものである。

最後に、今回のシンポにご協力頂いた方々に感謝の意を表します。ポスターのニワトリの写真、サル(旭山動物園のオランウータン含む)の写真はそれぞれ、今回の講演者であった新村氏、上野先生から提供頂きました。また、(残念ながら当日は来れなかったのだが)ポスターのイヌのイラストは宇都宮大学 4 年生の岩上に描いてもらいました。カメラマン、タイムキーパーはそれぞれ宇都宮大学の院生・学生である小池、高橋に依頼しました。そして何より、会場の確保と準備、当日の運営をして頂いた麻布大学動物行動管理学的研究室の皆様、特に私のメールでの依頼にしっかり対応して下さいました植竹先生に感謝致します。

動物の環境エンリッチメントに関するシンポジウム参加報告

鳥羽小百合(麻布大学大学院・博士前期課程 1 年)

今回のシンポジウムは神奈川県相模原市にある麻布大学で行われた。ちょうど学祭の日と重なっていたため、会場の外はとてみにぎやかであった。私は受付と質問者用のマイク渡しを担当させて頂いた。まず驚いたことは、13 時から開始の予定であったが宇都宮大学の青山先生はシンポジウムの幹事であるためか 10 時半頃にはいらっしゃっていたことである。早いです。一方でシンポジウム開始の時間が近づいてもなかなか人が集まらなかったため少し心配になった。しかし 5 分前を過ぎると集まり始め、ついさっきまで静かであった教室はにぎやかになった。きっと学際の出店に引き寄せられていたに違いない!(勝手に想像しました、すみません)。

前置きはこのくらいにして、これよりシンポジウムの内容に入る。

シンポジウムの題は「動物たちのQOL(生活の質)の向上を考える - 飼育動物における環境エンリッチメント -」であり、動物の福祉に関する内容であった。演者は 5 名で、佐藤衆介先生(東北大学大学院)、新村毅氏(麻布大学大学院)、上田秀一先生(獨協医科大学)、上野吉一先生(東山動植物園)、尾形庭子先生(どうぶつ行動ク



リニック・FAU)の方々であった。講演内容は、科学的愛で方、鶏における環境エンリッチメント、環境エンリッチメントの脳への影響、伴侶動物における環境エンリッチメント、霊長類の展示動物における環境エンリッチメントについてであった。各講演の後には質疑応答の時間があり、一般の方からも質問や率直な意見が出され有意義な意見交換がなされた。最後にもう少し全体討論ができる時間が設けられているとさらに良いものになるのではないかと、また、シンポジウムは一般の方に内容を理解してもらうことが大切なので、もう少しスライドの文字を少なめにしたり、絵や写真などすぐに理解しやすい・とつきやすいものを増やして硬い雰囲気を取り除いた方がわかりやすいのではないかと感じた。

私が今回特に心に残った言葉は、「ランドスケープイマージョン」である。ご存知の方も多いと思うがこれは生態展示のことで、動物園において動物が自然の中のように観客に感じさせるための、観客に対しての演出である。つまりこれがなされているからといって動物に幸福を与えているかというところにはならない。つまりこれと一見同じようで実は違うのが「環境エンリッチメント」というものである。これは動物の飼育管理技法であり、動物の要求を科学的に理解し応えることで、観客がどう感じるかは関係なく、動物に対して幸せを与えるものである。動物園ではそれぞれの動物が本来生息している自然環境を完全に真似することは不可能であり、また万が一完全に同じにできたとしてもそれがその動物にとっての幸せなのかは議論があると思う(たとえば捕食者におびえる環境など)。なにが動物にとって良いのか。動物にとっての幸せとはなにか。動物園では、動物は人の飼育管理下におかなくてはならないため、それを考える義務が人にはある。動物園という特別な環境においてその動物が幸せを感じられるより良い環境を提供することが私たち人の役目であると改めて感じた。

学会年会費納入のお願い

会計担当幹事 出口善隆(岩手大)



年会費を未納の方は、年会費(2,000円)をお振り込み下さるようお願い申し上げます。本年度(2007年度)会費未納会員は72名、2006年度会費未納会員は8名となっております。本学会の収入は個人会費のみです。未納会費金額は、いまだ2007年度予算の個人会費収入金額の58%に相当いたします。このような状況が続けば、学会活動に支障が出ることも予想されます。本学会財政を健全化するために、学会年会費のすみやかなお振り込みをお願いいたします。

お振り込み方法

「郵便振替口座」に、年会費をお振り込みください。

加入者名 応用動物行動学会

口座番号 02790-9-13298

なお、お手数ですが、お振込みには郵便局に備え付けの「郵便振替払込用紙」(青色、振込人が振込料金を負担する用紙)をご利用ください。

過去の年会費振り込み状況がわからない場合は、
会計担当幹事：出口善隆 (deguchi@iwate-u.ac.jp) までお問い合わせ下さい。

編集後記

ニュースレターNo.10 は、9月下旬に岡山で開催された現地検討会および 11 月上旬に麻布大で開催されたシンポジウムに関する記事を中心に配信させていただきました。今回がおそらく 2007 年の最後のニュースレター配信になるかと思えます。皆様、どうぞよいお年をお迎え下さい(かなり早いですが…)。なお、まったくの私事ではありますが、先日第2子(次男)が生まれました。この場をお借りして(お借りしてよいのか分かりませんが)皆様に御報告させていただきます。公私共々、益々充実させていきたいと思っておりますので、今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。(ニュースレター担当 河合正人：kawaim@obihiro.ac.jp)

